

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム光樹の杜
(ユニット名)	たんぼぼ
所在地 (県・市町村名)	佐賀県西松浦郡有田町
記入者名 (管理者)	西山繁美
記入日	平成 20 年 3 月 3 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域、ホームで暮らす中で必要な基本となる運営理念「一緒に集い、生活し、考え、働くことによって、信頼がめばえ、生きがいを見つける」を事業所の関係者が一体となり目標に掲げて取り組んでいる。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全職員が運営理念を理解しており、正面玄関は基より各ユニットをはじめ各所に理念を掲示していて、毎日、唱和して理念の実現を目指して取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>開設3年に成り、様々な取り組みや、活動を通じて家族や地域住民に自施設が認知されるようになった、これからもより良い関係を築き、家族、地域に貢献して行く。</p>	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>回覧版を隣近所に持っていったり、班の共同作業、清掃に積極的に参加し互いに顔見知りになり、自然と挨拶が出来る、また日中より夕方にかけて、近隣の方が見えロビーにて理学療法器を利用したり談話されている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホームは町内会に開設時より加入しており、行事の情報を受け地区の会合、祭りへの参加、道の清掃、公民館清掃等に参加している、また夏祭り、おくんちには人員の派遣、接待を行い交流している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域行事には積極的に参加しているが、これまで自施設の運営のみ懸命で、地域の高齢者との関係の構築がなく、取り組みが出来ているとはいえない	○	地域の高齢者を招いて利用者と一緒にレクリエーションやイベントを楽しみ、交流の場として地域に貢献したい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一部の運営者、職員のみが自己、外部評価を閲覧していたのが現状で満足な結果が得られていない。	○	評価の意義について理解を深めるために、職員に資料を配布し記入、勉強会の実施に繋げ今後を生かす。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に一度開催している、運営者、家族代表も必ず出席されている、委員に対して行事、運営他の報告し保険者、社協、民生員など行政の情報、要望を受ける、他に前回の問題について成果の確認もされる。	○	運営推進会議の意義、内容を的確に職員に伝達できていないので今後、サービスの向上の為にも取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者連絡会議に参加したり、施設内での事故、感染症の発生などについて随時連絡を取り指導を受けている、他に様々なサービスについての情報を受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者講習、苦情処理講習、虐待防止公衆などに積極的に参加している、現に成年後見制度については、1件の実例がある。	○	各種事業や制度について機会があれば学び活かして行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員は虐待防止、接遇などの講習を受けている、これを活かし勉強会の実施、資料の回覧にて法律の理解、順守に努めている。	○	高齢者虐待といっても身体的虐待だけではないが、ほとんどの職員が虐待自体を理解していないのが実情である職員間でも勉強会を開き内容の周知徹底に努めたい また、これらの事を絶対に見過ごす事のないように、職員間での注意に努める。苦情処理システムを見直す。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>担当の職員は、契約に関する事項を理解し、家族等が安心して施設を利用できるよう十分な対応が来ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員(5名)を受け入れて利用者からの相談を受けている、また職員については、信頼関係を築き生活全般の訴えを早く感知し問題を共有しながら解決に努める。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>光樹の杜便りを季節毎に発行している、また会計担当より預かり金の報告、日頃のスナップ写真を同封し、家族との関係を大切にしている、面会時は日頃の生活全般が分かるように各個人のアルバムを用意している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時等を利用し、管理者、職員に対して意見、要望が言い易い雰囲気、関係を作っている、それらを真摯に受け止め対応している。</p>	<p>○</p> <p>それでも本音を引き出すのは、現状互いに困難である、設置してある投書箱の利用、また運営推進会議の活用、佐賀県福祉サービス運営適正化委員会の紹介。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月実施している各ユニットの職員会議、3ヶ月毎の運営者、管理者が参加しての全体会議で職員個々の意見を出してより良い運営に取り組む、また毎月、各ユニットのミーティングに管理者も参加して円滑な運営がされている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時の勤務者の配置については、職員数も十分に充足しているので利用者への影響は無い、緊急時は柔軟な対応が出来るよう危機管理に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の落ち着いた生活を第一に配慮して、各ユニット間の異動は極力控えているが、ターミナルケアなどの特別な支援では異動がある、やむを得ない場合は管理者と職員が充分検討して異動している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、専門職により研修会を不定期に実施している、各種の研修会には積極的に参加を促し職員には発表、伝達の間を設けている、各種の講習会は常勤、非常勤の別なく勤務時間として組み入れ機会を与えている。	○	職員が自発的に希望をする、また出来るような職場環境を構築する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区内のホームとは密接な関係があり交流が出来る、当地区は佐世保市と境で市内の施設との相互交流もある、他に学ぶ事で自施設の向上に役立っている。	○	同業者との交流は運営者、管理者の理解が大である、その点は当施設は恵まれている、職員の意識改革を待っている、管理者から仕掛けをしているが自発性が無いのが現状だ。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士、話し易い雰囲気になるように環境を作ったり、同規模の施設に対し比べてもゆとりのある職員配置をしている、また休憩場所についても、ソファー、エアコン、加湿器、電磁治療器2台を設置しリラックスできるスペースを確保している他、職員同士、運営者、管理者が参加しての懇親会も開かれている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	特別な勤務評定は実施していない、運営者は職員個々を理解できるよう努めている、交流、会話の機会もある、離職者も少ない職場である。	○	現状に満足することなく、職員に接し意見その他を汲み上げる。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に利用する本人から出来る限り聞き取り調査を行うとともに、入所後の生活状況、身体状況を確認しながら信頼関係を築くよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家族からの聞き取り調査を行うとともに、入所後の生活状況、身体状況を確認しながら信頼関係を築くよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所だけにとらわれず、訪問看護、訪問介護、配食サービス、デイサービス利用など担当の介護支援専門員と共に検討しアドバイスをしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境に馴染んでもらう為に、入所前に見学等実施し、その中で食事や職員との対話等体験を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	礼儀作法、思いやりの精神を学んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型の行事を実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や年中行事を通して、本人と家族との関係の向上の努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人からの面会があったり、交流は活発である。本人の希望があれば老人会(町内行事への参加)への促進も行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で仲の良い相手を見つけたりと比較的交流は保たれている。入居者が孤立感を感じる事のないよう、職員が側に着く等の対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者及び家族との関係は、退去された後の連絡の取り合い、交流は途絶えてしまうのが現状である。	<input type="radio"/>	転居された利用者、家族に対しても相談等できるよう、退去時に説明し関わりを持つ。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全性を配慮した上で、本人の希望する暮らしができるよう尊重した支援を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込みの段階よりこれまでの個々の生活歴、ライフスタイル、価値観などの基本情報を収集している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの中で、個々の役割を見い出し、生きる喜び、自己の存在価値を実感できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向をふまえ、介護職、介護支援専門員、看護師と検討し介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね、6ヶ月ごとの計画の見直し、又状態等変化があった場合はその都度計画を見直している	<input type="radio"/>	面会が少ない利用者もいるため、見直し後、家族への報告が遅れるケースもある。今後は定期的に連絡し家族の意見も取り入れ、介護計画に活かしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体、精神状態の変化、気づき、活動面等を個々のカルテに記録し誰でも内容を知ることが出来、情報を共有しながら介護計画の実践、見直しの参考にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会家族の為に居室、リビング以外の静かな場所を提供してゆっくり談話して頂く、また食事の希望があれば提供する、配偶者等の泊まりも認めている、他に日本庭園の広場があり、幼稚園児が年に数回、遠足に来て利用者との交流がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	単発的なボランティアグループの訪問は年に数回の実績があるが地域、行政とスクラムを組むまでには至っていない。	○	今後、利用者の平均年齢も上がり、突発的な救急に備え応急処置の講習を定期的をお願いしたり、文化的交流も有田地区は盛んであり定期的に依頼していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町のエリアでは同業者、他の事業所も少なく情報が少ないのが現実で出来ていない。	○	利用者の不利益にならないよう、積極的な交流をし、サービスが出来るようネットワークを広げる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて相談、助言を受けている、また運営推進会議に毎回参加された時に情報交換の場を設けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師に定期的な往診を受けている また、それ以外にも希望される医療機関がある場合は円滑に尚且つ適切な医療が受けられるよう支援している		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>開設当時より現在まで、入居段階での利用者本人(及び家族)の終末期の意向確認がとれていないため新たに「事前確認書」として様式を作成していきたい。まず入居段階で意向確認をし、「看取り」実施段階で最終的な本人(及び家族)の意思を確認していきたい</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ケース毎に反省会やカンファレンスを繰り返し、本人主体の介護(看取り)ができたのか、話し合い、決して介護者側の押し付けや自己満足だけに終わらないようにしていきたい</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の人格を傷つけたりする事のないよう言葉かけや対応には配慮している。フェイスシート等はカルテに閉じて管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入所者一人、一人の話を傾聴しながら、本人の思いや要望をひきだし、自己決定が出来るような環境を常に心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況に応じ、柔軟に対応するよう努め、個々の意向を尊重し支援している。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の持ち物の中から季節、天候に配慮したその人らしい選択が出来るよう支援している。個別に理美容の付き添いを行い家族の希望によっては訪問美容を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを調査し献立に取り入れたり、利用者と一緒に事業所の畑に季節の野菜を採りに行ったり、食事の下準備や後片付けを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好については健康状態や状況に合わせ、周囲への配慮や指定の場所を設けた上で楽しめる支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンや排泄機能を把握した上で、なるべくオムツの使用や失敗を減らし利用者の苦痛に感じることのないような言葉かけや誘導に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の言葉かけから利用者に入浴の決定を行ってもらっている。自己の判断が困難な利用者に対しては職員側の都合で決めているのが現状である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間でも夜間に影響しない程度で休息をとれるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴、ライフスタイルに応じての役割作りを通し、生きる喜び、自己の存在価値を実感してもらえるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月定期的実施されている外出日は、各コースに買い物ができるよう設定している、他に購入を希望があれば、高額な品は預かり金より支出し、小額な物はご自分の手持ちの小銭より、職員と相談の上、買い物を楽しまれる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	状況が可能な限り、本人の希望があれば職員の付き添いで日用品等の買い物などの支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせた行事を各ユニットごとに企画し、無理のない程度での外出ができるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の利用は、本人の希望に応じて家族の協力を得ながら対応している。年賀状や暑中見舞いで外部ときっかけを作っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者があった場合は、茶菓子の提供等でゆっくり過ごせる雰囲気作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法律を順守しそれらの行為を行わない、見過ごさないよう、全職員が理解し取り組まれている。	<input type="radio"/>	関係する研修会等の情報があれば積極的に職員を派遣していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかける事無く、出入りは自由、リスクはあるが職員が必ず見守りを行う、他に玄関ドアが見渡せる場所に事務室があり職員が常駐し注意を怠らない、施錠する時間帯は遅出が退社する時間に決めている。	<input type="radio"/>	ホームより本通りまで民家が6軒あり、これまで様々な協力を受けてきた、鍵をかけない施設を目指している事を近隣にも理解して頂く。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が必ず全体を見渡せる位置にいて、安全な生活が出来るよう配慮し、人員配置を確保している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物品の保管、管理は管理者、リーダーが毎日施設内を巡視して適切であるか把握し、会議時に共通意識を持つよう伝達している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの事故を未然に防ぐ為に、平常心で行動が行動が取れるよう常々指導している。軽微な事故もヒヤリハットに必ず記録し全職員に伝える、火災等の急な災害についても、避難、誘導の方法について全員に意識を持つように教育している。	<input type="radio"/>	人命に関する重要な事なので、研修会を実施して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的には看護師が対応しているが看護師不在時でも緊急・急変時マニュアルに従い対応している	○	定期的な実施訓練は行っていない為、今後取り組んで行きたい(外傷に対する応急処置、止血法、固定法、心肺蘇生法等)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に管内の消防署に指導、点検を受けて消火、避難の体験が出きる機会を設けている。地域の協力については、非常通報システムで直近の家庭に通報が行き、避難の協力を得られる体制を作っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	やはり、認知症の進行や下肢筋力の衰えに伴い、転倒など事故のリスクは高くなる これを防止するために、安全な環境づくりは基より、訓練ではなく毎日のストレッチやレクレーションの中で下肢筋力低下の予防に努めている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル(体温・脈拍・血圧・呼吸・血中酸素濃度)測定は毎日行っており、すべての職員が周知できるよう1ヶ月毎の表にまとめ早期に異常発見できるようにしている 体調の変化等ある場合は、その詳細と対処した内容をケース(カルテ)に記録している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルサインチェック表に個人別に現在内服している薬・効能・注意事項を添付していて、職員がいつでも確認できるようにしている また服薬が確実に行えるように看護師が管理し 1日分ずつセットしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄の確認は徹底している 便意がない入居者においても、毎朝、決まった時間にトイレに座ることから始め、排便の習慣を作るようにしている 安易に薬に頼るのではなく腹部マッサージや水分摂取、運動などに努めている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがいを習慣化し、必要に応じて言葉かけ介助を行っている。就寝前には入れ歯を洗浄剤につけおきをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常勤者に食事専門員を配置して量、バランス、水分量を管理している、それらについて利用者、職員の意見をまとめ、管理者と担当者で調整している、また季節により熱中症による脱水予防の為、スポーツ飲料を購入し飲用している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の勉強会や研修に積極的に参加し、その内容を報告書として提出し、全ての職員が閲覧できるようにしている またマニュアルを作成し感染症予防に努めている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	施設内の12箇所にペーパータオル、薬用石鹸、消毒スプレーを設置してある、床、取っ手等は塩素系の薬品で定期的に清拭しているほか食器乾燥機を導入し衛生管理に努めている、また食材等は新鮮で安全な物を毎日調達し冷凍品を使わない工夫をしている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場は外来者用に広く整備されている、エントランス付近には利用者、職員によって手入れされた季節を感じる花が咲いている、玄関は自由に出入りでき、段差も少なく靴等を収納するスペースも広く取れている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルで落ち着いた色使いの内装で、どの場所も広めにスペースを取って圧迫感を感じさせない、ホームの各所より周囲の庭、畑、山が見渡せ四季を感じ取れる環境がある、各所には遮光するカーテン、ロールブラインドがあり状況に応じた操作をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く畳のスペースには炬燵があり、和室感覚で利用されている、また歌が好きな方は大型テレビのカラオケで楽しませている、ホールも自由に開放し電磁治療器2台を置き個人、気の合った同士で時間を過ごされる、暖かい日には70平米あるバルコニーで自然を感じ取られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実際に使っていた、タンスやソファなどの家具を持ち込み居心地の良い空間・環境作りに努めているが、完全ではない	○	利用者によっては殺風景な居室になっているのも事実であり、生活感のある居室作りができるよう、家族にも協力を呼びかけていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	玄関ホール、居室、各所には、強制換気扇を設けて定期的に清掃されている、冬場は6台の加湿器を可動させ健康管理に努めている、エアコンの温度調節は終日、職員が管理している他に冬場は床暖房設備を使用し室内の乾燥防止に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所には手摺りを取り付け、廊下の幅は歩行に差し支えない広さがある、トイレも車椅子使用に支障を来さない構造ですべてバリアフリーとなっている、また障害物等は置かないよう管理者、リーダーが指導する。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の大半が廃き物関係の仕事に従事しており、私たちから見ると絵を描いたり色を塗ったりするのは、お手の物のように感じられる 一人ひとり得意分野はちがうが、それらを活かし、毎月カレンダーの作成している また、何でも援助するのではなく、できることは時間がかかっても、やり遂げられるよう、見守るようにしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	エントランスより外周は畑、花が植えられ歩いて行ける、裏庭は広い日本庭園があり四季を感じ取れる、ルーフバルコニーは両ユニットより往来が出来て広さも十分あり車椅子の利用、日光浴など多目的に利用されている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム光樹の社は、日本の磁器発祥の地であり、400年の歴史と文化の香る町にホームを構え、4月には開設4年目を迎えます。運営理念を基本に利用者、職員は、笑顔があり、笑いがあふれ、楽しく毎日過ごされている、建物はもと料亭の山荘跡地で広大な敷地に平屋建てで建てられている。これからも地域に愛され、一つの地区内の家庭となるよう職員一同邁進していきたい。